

平成 29 年度 市民クラブ行政視察報告



期 間：平成 29 年 10 月 17 日（火）～10 月 19 日（木）

視察先：宮崎県日南市 《飢肥食べあるき・町あるき事業について》
宮崎県宮崎市 《中心市街地空き店舗補助事業について》
宮崎県小林市 《K I T T O小林の運営について》

参加者

市民クラブ 小林 敏秋、岡田隆司、神谷庄二、稲垣正明、長谷川敏廣、
颯田栄作、鈴木 正章、稲垣一夫、鈴木武広、石川伸一、
永山 英人、松井晋一郎、渡辺信行、本郷照代、松崎隆治、
青山 繁、犬飼 勝博

以上 17 名

事業実績（視察）報告

1 視察の概要

目的 飢肥食べあるき、町あるき事業について

日時 平成 29 年 10 月 17 日
午後 1 時～午後 3 時

場所 宮崎県日南市



国際交流センター小村記念館

参加者 小林敏秋、岡田隆司、神谷庄二、稲垣正明、長谷川敏廣、
颯田栄作、鈴木正章、稲垣一夫、鈴木武広、石川伸一、
永山英人、松井晋一郎、渡辺信行、本郷照代、松崎隆治、
青山 繁、犬飼勝博 以上 17 名

2 主な質疑・答弁

Q 「飢肥食べあるき・町あるき事業」で観光客を通過型観光から滞在型観光への取り組みについて、取り組みの背景・内容と取り組みの成果を教えてください。

A 飢肥地区は、飢肥城を中心に石垣や大手門、武家屋敷や資料館等が整備され、毎年多くの観光客が訪れています。しかし、観光客の大半が大型観光バスで訪れ 1 時間程度の施設見学で終わる「通過型観光」がほとんどであったため、飢肥城周辺に観光客は来ますが、飢肥商店街には観光客がほとんど来ない状況となっております。

そこで、岐阜県郡上八幡を参考に、平成 21 年度より「飢肥城下町食べあるき・町あるき事業」として、観光客が飢肥周辺のみでなく、商店街へ足を運んでもらうよう事業を開始したところです。事業の内容としては、飢肥城下町保存会が運営するマップ販売所

や由諸施設、小村記念館の8箇所マップを購入し、マップに付いている引換券にて、加入店舗で対象商品と交換する形です。マップは、有料施設入館券（全7館）と食べあるき・町あるきセット（1,200円）及び、有料施設入館券（3館）と食べあるき・町あるき（700円）の2種類で、それぞれ5枚の引換券が付いています。

対象商品は、飫肥名物のおび天や厚焼き卵、飫肥杉の箸や手作りのお札入れなど、雑貨・小物があります。

「食べあるき・町あるき事業」を開始してからは、商店街に多くの観光客が訪れるようになり、利用者数は、平成21年は21,400人、平成25年は26,600人と増加し、平成28年はご利用20万人突破記念イベントを実施し、33,000人の利用者となりました。また、観光客の増加だけでなく、営業努力によって売上を伸ばしている店舗もあり、商店街も活気付いているところです。

Q 日南市の観光客の推移を教えてください。また、特筆すべきことがありましたら教えてください。

A 本市への観光客人数の推移は、平成21年の本市合併以降、約190万人程度で推移しているところです。口蹄疫や東日本大震災等により観光需要が縮小した時期もありましたが、その後増加し、平成27年には約197万人となっております。平成28年は約175万人と減少していますが、近年クルーズ船の寄港が増えており、今年度は9月末現在で20隻の寄港があり、市内を観光する外国人が増加しています。また、プロ野球チームやサッカーチームのキャンプ地でもあることから、春季・秋季キャンプ実施時期は関係者や見学を目的とした方が来訪されています。

Q 観光という観点で、街づくりをどのように考えられましたか。

A 本市では、平成27年度に日南市観光振興計画を策定し、その中で市内の特色ある個々の地域にて観光機能や観光利用の方向を想定する「日南市観光ゾーニング」を指定しています。

飫肥地区は、飫肥城をメインとした城下町街並みの散歩や、文化・食を楽しんでもらえる地域であり、観光客が多く来訪する地区でもあるため、歴史資源・自然資源の発掘と磨き上げを行っていくと共に、他のゾーンへの回遊性を高めるよう街づくり拠点の整備や計画を検討しているところです。

Q 広島東洋カープの経済効果と市民の意識はどのようなのですか。

A 平成 29 年 2 月 1 日から 20 日に実施された広島東洋カープ春季キャンプ中の来客は、リーグ優勝したこともあり、77,000 人でした。来年 2 月の春季キャンプは、リーグ 2 連覇を果たしたことから、更に多くの来客を見込んでいるところです。ご質問の経済効果につきましては全体の数的な算出はしておりませんが、飲食店や土産店等の売り上げが、昨年と比べて 2.5 倍になっており、期間中の宿泊施設についても、期間中、連日満室状態であったことから、経済効果は近年大きくなってきております。また、広島東洋カープに対する市民の意識についても、来客数に比例するように高まっており、市民を対象とした応援バスツアーも毎年定員に達する等、大盛況です。

Q 日南市観光ボランティアガイドの役割と市民参加型の年間を通じてのイベントにどのように取り組んでいますか。

A 日南市観光ボランティアガイドは、多様化する観光客のニーズに答えるため、ガイドを通じて本市の歴史・文化・自然の紹介や魅力を伝えていきます。地元の歴史と観光スポットの紹介に熱意を持ったボランティアメンバーで構成され、平成 29 年度は 37 名の登録があります。

主に飫肥城周辺や油津堀川運河のガイド観光を行うとともに、2 年に一度、本市の歴史や観光等を市民に知ってもらおうとともに、本市を訪れる観光客に対して案内ができる人材を育成するため、市民参加型の養成講座を実施しています。

Q 地域の特産品の開発と PR はどのように行っていますか。

特産品については、市が主導するだけでなく、民間事業者と連携することで、幅広い意見と情報を取り入れながら開発を行っています。

例として、商工会議所を中心とし、民間事業者と行政で組織した「県南観光ネットワーク」にて、漁獲量日本一である一本釣りカツオを使った「一本釣りカツオ炙り重」を開発しました。この商品は、2010年の販売から約7年間で20万食を達成し、その後も順調に販売数を伸ばしています。PRについては、日南市観光協会内にある日南市地場産品物産振興協会にて実施しております。主な取り組みとしては、市内外の各種物産観光展への積極的な参加・開催に努めるとともに、協会会員の特産品等のパンフレットやインターネット等を利用して、特産品のPRや物産展の開催情報等を積極的に発信しています。

Q 観光資源を有効に活用し、市をあげて支援するなど、観光行政に積極的に取り組んでいます。その方法と効果はどのようなのですか。

A 飫肥城をメインとした城下町街並みの散歩や、文化・食を楽しむでもらえる地域として、飫肥城及び周辺由緒施設、食べあるき・町あるき事業、季節ごとのイベント体験等の情報をインターネットやSNS等を通じて発信しています。あわせて、観光協会や飫肥城下町保存会をはじめ、県、周辺市町村、関係団体との連携を図り、対外向けプロモーション体制の構築やマスコミや情報発信媒体等による情報発信の強化も行っています。また、飫肥地区だけの観光でなく、市内各地へ回遊してもらえるよう、公共交通手段を活用したハード、ソフト面の仕組み作りを行っているところです。

Q 城下町飫肥景観計画について景観活用事業はどのように取り組んでいますか。

A 「城下町飫肥景観計画」は、飫肥地区にある歴史的景観の保全と活用とともに、飫肥地区の景観特性を活かした良好な景観まちづ

くりの推進を目的として平成 26 年 4 月に策定しました。これにより、「城下町 飫肥 景観計画」に沿って歴史的景観と調和するよう建築物や工作物などの修景を行う場合、経費の一部助成を行っております。なお、助成に関する情報を市HP等で発信しており、施主からの相談はあるものの、平成 29 年 9 月現在、助成の実績はまだありません。

Q 飫肥の歴史と伝統的建造物について、

① 建造物保存地区では、建造物の保存にどのように取り組み、建造物を守っていますか。

A 日南市 飫肥 重要伝統的建造物群保存地区は、昭和 52 年に九州で最初の重伝建地区に選定され今年で 40 年を迎えました。

伝建地区内では、飫肥の街並みを保存・整備していくため、すべての建築物等（建物・石垣・生垣など）について、その状況を変える行為を行う際は、事前に現状変更許可申請書を提出していただきます。その内容を確認し、市及び市教育委員会が許可した後、着手することとしており、地区内の街並み保存を行っております。

また、個別物件では、地区内に伝統的建築物の建築物（主屋・長屋門・薬医門）が 11 件、その他の工作物（石垣・門・漆喰瀝）が 127 件、環境物件（生垣）23 件の計 161 件あります。これら伝統的建築物及び非伝統的建築物の保存については、日南市 飫肥 伝統的建造物群保存地区保存計画に基づき、飫肥の歴史的風致に沿った保存（修理・修景）を行っております。その際に、多額の費用を所有者に負担してもらうことから、外観部分（通りから望見できる範囲）については、文化庁・県の補助金も活用しながら所有者に対し上限なしの 8 割以内の補助を行っており、この 40 年の間に約 150 件以上の補助も行い、建築物等の保存を行ってきました。

Q ② 城下町 飫肥 の景観計画をどのように取り組んでいますか。

A 「城下町 飢肥 景観計画」では、良好な都市景観を形成する区域として「景観まちづくり重点地区」と「景観まちづくり推進地区」の2つの景観計画地区を指定し、景観計画区域内で建築物・工作物の新築、増築、改築、色彩の変更等を行う場合には、日南市美しいまちづくり景観基本条例に基づく行為の届出を定めています。また、景観形成基準に適合しない場合には、日南市景観審議会で審議を行い、変更命令などの指導を行うことができます。

A 日南市は「官民協働のまちづくり」をめざし、市内9地区に協議会を設置しています。飢肥地区（5,995人、2,497世帯）は、平成25年7月に自治会及び地域の各団体が中心となり、地域連携組織「城下町 飢肥 まちづくり協議会」を設立しました。この協議会は、地域の問題を主体的に捉え、住民と一緒に課題解決を図るとともに、飢肥の特色を活かした事業を展開し、地域の活性化を図ることを目的としています。この協議会の事業のひとつの柱に地域を創る交付事業があり、平成29年度のこの事業では、おび城音楽祭、地域の歴史を学ぼう、小倉処平顕彰事業、城下町歴史ウォーキングなどがあり、多くの市民の参加を得ています。

3 所見

（渡辺）観光施設から商店街に足を運んでもらうために「食べあるき、町あるき」事業を展開して成果を上げている。特徴的な取り組みとして、町並み全体を文化財にしていること、自立した町並み保存や調査・研究、清掃など奉仕活動、商店の積極的な協力、そして観光客に対する「おもてなしの心」、「おもてなし向上」に努めていることが感じられた。観光客を増やすためには、他のまちにない観光資源が必要であるし、また、魅力のある観光施設にすること、観光客を迎える人づくりが大切であると感じた。

(永山) 飫肥地区では、飫肥城をメインとした城下街並みの散策や文化・食を楽しむことができ、滞在型観光への取り組みがなされていた。西尾市においても、各地区の個性を生かし、何度も来なくなる、長く滞在したくなる観光地を目指した。

(本郷) 全国に幾つかある「小京都」の一つ飫肥の町は、文字通り「歩いて楽しい」「食べておいしい」町づくりへ住民総意で取り組んでいることが伺えた。電柱の地中化、おもてなしの心など西尾市での取り組みとの共通点も多々ある。町内に散在する名所・旧跡を巡りながら、産地特産を手にするができるクーポン券などのインセンティブはぜひ西尾市も見習うべきと考える。訪問客の滞在時間を2時間以上に、という戦略も具体的で大いに参考になった。

(松井) 空き家対策と、国内旅行者・インバウンド観光事業を融合した新たな事業施策、変化し続ける観光事業への対策と地域観光の再興、増加する空き家対策への対策としての取組み、電柱地中化、景観配慮など街並みをあるく動線への配慮に重点を置くことで、「歩く・見る・食べる」による、短い滞在時間での観光事業を展開されている。本市の動線にも似通った部分も多くあり、検討の価値がある。空き家の維持管理、インバウンドへの周知の課題など改良の余地はあるが、どの自治体でも起こり得る空き家対策をこのような形態で改善に導こうとする試みは勉強になる。

(犬飼) 九州の小京都と言われる飫肥城下町を視察させて頂き、通過型観光から滞在型観光を目指した「飫肥城下町食べあるき・町あるき事業」の取組は、地域住民を巻き込んだ取組であり、西尾市の観光客誘致への取組に共通する課題である事から、大いに参考となった。今後、地域を挙げてのおもてなしを推進する為には、

まちづくり協議会を設立する等、地域を挙げてお客さんをお迎える仕組づくりが必要である。

観光客誘致に参考になる取り組みだと思う。お得感のあるチケットの発行や観光名所との連携はとても素晴らしいと思う。空いた店舗の有効利用もされていて、西尾の商店街の活性化のヒントになると感じた。

(稲垣) 市と地域が一体となって観光都市づくりをやっていることが、町並みや各種ボランティア活動などからひしひしと感じられた。古い町並みは端正で魅力が感じられる。平日でありながら、観光客も多くみられた。西尾も小京都というが、飫肥の足元にも及ばない。

西尾も小京都にふさわしい町にしようと思うならば、真剣な取り組みが必要と感じる。

(颯田) 飫肥地区は城下町である。飫肥城周辺に観光客は来るが、商店街に観光客はほとんど来ない。そこで小京都も良いが、郡上八幡を参考に平成 21 年度より「飫肥城下町食べあるき・町あるき事業」として、観光客が商店街に足を運んでもらうよう事業として開始した。

飫肥城下町保存会が運営するマップ販売所や由緒施設、日南が生んだ世紀の外交官、小村寿太郎記念館の 8 箇所マップ引換券を購入し加入店舗で対象商品と交換する形を取った。

マップは、有料施設入館券（7 館）と食べあるき・町あるきセット 1,200 円。有料施設入館券（3 館）と食べあるき・町あるき 700 円の 2 種類あり、それぞれ 5 枚の引換券がついている。利用者数は年々増えて、平成 28 年度はご利用 20 万人突破記念イベントを実施した。

城下町西尾も小京都として売り出し、西尾城跡地をメインにお祭り事業を実施しているが、城下町街並みの散歩や文化を楽しむイベントを、通年通しての事業にする気概が欲しい。

関係者は全国の城下町まちづくりを視察するくらいの意気込みが欲しいと感じました。



事業実績（視察）報告

1 視察の概要

目的 中心市街地空き店舗補助事業について

日時 平成29年10月18日
午前9時～正午

場所 宮崎市役所

参加者 小林敏秋、岡田隆司、神谷庄二、稲垣正明、
長谷川敏廣、颯田栄作、鈴木正章、稲垣一夫、
鈴木武広、石川伸一、永山英人、松井晋一郎、渡辺信行、
本郷照代、松崎隆治、青山 繁、犬飼勝博 以上17名



2 主な質疑・答弁

Q. 中心市街地空き店舗が増加した理由

A. ① 店舗の老朽化

- ・耐震基準を満たしていない
- ・防火・災害対策がとられていない
- ・ガス、水道、空調設備が不十分
- ・トイレの改装が行われていない

② 所有者に貸す意思がない

- ・後継者がおらず、店を閉店
- ・無理に貸さなくても生活に支障がない
- ・オーナーが高齢化しており、管理できない
- ・そもそも所有者が不明
- ・土地と建物で所有者が異なり、転売も困難

Q. 空き店舗対策として、どのような取り組みをされているか。

A. ① 中心市街地の空き店舗への出店支援

起業・創業等により中心市街地の空き店舗へ出店予定の方で、一定の条件を満たしている方に対して、店舗改装費や開店広告費の一部助成。補助金の上限は30万円以内。

② 助成対象エリア内の空きビル等を賃借して、オフィスを設置する事業者のうち、情報サービス業等の事業者への支援

○ 家賃の助成

家賃の1/2 最大12か月分 上限7万5千円/月

○ 新規雇用の助成

新規雇用者1人につき30万円 上限5人分

③ 中心市街地エリアのビル等のフロア改修への支援

改修工事完了後1年以内に情報サービス業等の事業所が入所した場合にビル等の所有者へ助成金を交付。

○ OAフロア化の助成

必要経費の1/3 上限工事費単価1万円/m²、面積120m²

○ 高速通信回線導入の助成

必要経費の1/3 上限40万円/件

Q. これらの助成の成果はどうか。

A. 平成23年度から28年度までの空き店舗補助金交付実績は次のとおり。

| | | | |
|--------|------|------|---------|
| 平成23年度 | 件数8件 | 補助金額 | 4,746千円 |
| 平成24年度 | 件数7件 | 補助金額 | 3,879千円 |
| 平成25年度 | 件数6件 | 補助金額 | 3,765千円 |
| 平成26年度 | 件数6件 | 補助金額 | 1,678千円 |
| 平成27年度 | 件数6件 | 補助金額 | 2,202千円 |

平成 28 年度 件数 4 件 補助金額 900 千円

Q. 補助決定に係る選考委員会の構成メンバーはどのようなか。

A. 4 人で構成している。

- | | | |
|--------|------------|------|
| ○ 商工団体 | 商店街振興組合連合会 | 事務局長 |
| ○ 専門家 | 商工会議所 | 所長 |
| | 税理士事務所 | 所長 |
| ○ 行政 | 市役所商業労政課 | 課長 |

Q. その他、参考になる施策があったら、ご恵与ください。

A. 中心市街地商店街が自発的に集まり、「DO 真ん中モール委員会」を立ち上げ、活発に活動している。委員会が自ら不動産会社から資料収集し、空き店舗内覧会を実施している。この 7 月には 22 回目の内覧会を開催したところ。

参加者が 1 か所に集まり、そこに行政、金融機関、商工会の担当者も同席し、各不動産店から鍵を借り、自由に 3 時間程度内覧する。

委員長は米屋さんの二代目でメンバーは 40 代が中心。民と官の連携施策で好評。

「マチナカ 3000」プロジェクトを立ち上げ、2024 年度までに 3,000 人の雇用増加を目指す。街中に雇用人口を増やし、市街地を活性化させていこうとの戦略で、雇用拡大戦略ロードマップを示している。

3 所見

(渡辺) 宮崎市の空き店舗となる理由は、昔の長屋など老朽化している所が多く、また、後継者不足や郊外ショッピングモールへの進出などによっている。空き店舗の解消を図り、魅力ある商店街の形成及び雇用の創出のために空き店舗活用促進事業補助金制度を実施している。この補助金制度は、どこの市でも実施しているが、宮崎市の特徴は、中心市街地雇用拡大プロジェクトとの連携で取り組んでいるところにある。就業機会の増加、交通利便性の向上、にぎわいの創出、居住環境の向上の4つの施策の方向性が示されている。このように、空き家店舗の対策としては、店舗一点に目を向けるのではなく、企業誘致や創業支援などの経済活動、まちづくりとの連携、民間活用などによる取り組みが必要であると感じた。

(永山) 空き店舗の増加については、全国的にも大きな問題となっている。宮崎市では、補助金を出して、事業者やビルの所有者へ呼びかけたが、思うように成果は出てこなかった。そこで、若手を中心に「D o まんなかモール委員会」が発足したり「マチナカ3000プロジェクト」を立ち上げたりと、若い力が頑張っている。西尾市でも商工会の若手が頑張っているので、市として応援できる事業を進めていきたいと考える。

(本郷) 全国的に問題になっている空き店舗増加の問題は、後継者不足と郊外型大型店舗進出が大きな要因であることが改めて良く分かった。特に不動産所有者の意向は重要で、「いまさら」「もういい」という後ろ向きの気持ちをどう前向きに変化させていくか 手腕が問われるところだと思う。その点、宮崎市の取り組みのようにIT産業の誘致という視点は一つの参考になると思う。家賃や地価の割安感を前面に出し、若者の創業支援、企業誘致を合わせて行うことで、飲食関連などにも波及効果があるようだ。

(犬飼) 視察した宮崎市の中心市街地の空き店舗増加理由は、郊外大型ショッピングモールの進出や社会的要因も影響して増加しており、将来の街づくり、地域づくりに大きく影響する問題であった。取り組みの「中心市街地空き店舗補助事業」は、起業・創業等により中心市街地の空き店舗へ出店予定の方への補助事業であり、有効な施策である事を確認することが出来た。

また、3千人の雇用促進に重点的に取り組む「マチナカ3000プロジェクト」では、就業機会増加、交通利便性向上、にぎわいの創出、居住環境向上の4つの施策の方向性が示されており、中心市街地活性化の取り組みでありました。今後、宮崎市のように、「中心市街地空き店舗補助事業」制度等についても検討する必要があると考える。

(松井) 企業誘致のみではなく、新規事業設立への支援による空き店舗利用、雇用創出への取組は産業創出の観点からも勉強になった。若者を中心に人口流出があるようで、地元への愛着を維持させるためのインフラ整備、市街地づくりには苦慮されていることが伝わる。既存の建物、スペース活用の行政側の意図と、企業ニーズのマッチングは難しいと思うが、誘致によるソフト面の充実がハード面での改善につながると果敢に挑戦してみえる宮崎市の試みは本市の将来像を描くうえでも見習うべき点がある

(稲垣) 地方都市にある中心部の空洞化に歯止めをかける取り組みとして、空き店舗利用の促進にはとても参考になる取り組みだと思う。地価の安さや人件費の安さ、人の好きなど地方の強みが活かされている。ただ、西尾市には大きなスペースのある空き店舗が多くあるわけではなく人件費も安くない。利用に制限があると思うので、再開発の方が有効ではないかと思う。郊外に大型ショッピングモー

ル進出などにより空き店舗の増加のため、補助事業を始めたが、これは最終的に地域経済の活性化のプロジェクトに結び付いたとの説明があった。工業誘致ではなく ICT 関連産業の企業誘致であり、ベンチャー企業を含むものであり、西尾市とは異なり、興味深かった。

(颯田) 市内を歩いていると、空き店舗の多さに驚き、空き店舗対策の中で担当者の苦勞が垣間見えしました。中心市街地を 18 のエリアに分けて空き店舗割合は平均で 17.7%との報告です。中には 60%近い空き店舗通りもありました。最大の原因はイオンモールの出店、それも日本を代表する店舗で、現在増設の話が進んでいると心配していた。

市も空き店舗活用促進事業として助成事業を展開し、家賃は 2 分の 1 で最大 12 か月分上限月 7 万 5 千円。新規雇用には月 30 万円、上限 5 人分で 12 か月雇用継続に交付。

ビルなどにも IT 企業からの話は多いが、建物が古く狭いため、改造してもワンフロア 200 m²以上となると、壊してしまうのが安い状態で中々まとまらないのが現状のようです。駐車場などはすぐに決まるそうです。

当市においても地域によって大型店の出店や増改築により、後継者のいない店舗の老朽化などにより空き店舗が増加することが懸念される。お金もかかるがしっかりと見極め、シャッター通りを増やさない対策が必要になってくる。



事業実績（視察）報告

1 視察の概要

目的 K I T T O 小林の運営について

日時 平成 29 年 10 月 19 日
午前 9 時～正午

場所 K I T T O 小林

参加者 小林敏秋、岡田隆司、神谷庄二、稲垣正明、
長谷川敏廣、颯田栄作、鈴木正章、稲垣一夫、
鈴木武広、石川伸一、永山英人、松井晋一郎、
渡辺信行、本郷照代、松崎隆治、青山 繁、
犬飼勝博 以上 17 名



2 主な質疑・答弁

Q K I T T O 小林の目的と建設された経緯はどのようなようですか。

A ふれあい・交流スペースの確保を図るとともに、利用しやすい中心市街地の形成のために、小林地域・観光センターを建設し、活性化に期待している。

Q 建設費及び建設期間はどのようなようですか。補助金の利用はありましたか。

A 総工事費は 3 億 3,497 万円。うち補助金が 1 億 3,399 万円、起債 1 億 8,080 万円、市基金 2,018 万円。工事期間は、平成 28 年 9 月～29 年 6 月。

Q 現在の利用状況はどのようなようですか。どのような利用が多いですか。

A 交流スペースは、集会や会議のほか、ビアガーデンや吉都線 105 周年イベント、利用者の待合い室、勉強スペースなど多種に利用されています。

Q 利用者の声はどのようなことがありますか。どのように反映させていますか。

A 基本的には好評をいただいておりますが、トイレが分かりづらいなどの声もあったので、掲示等で対応しています。

Q 広報やPRはどのように行っていますか。

A 市広報誌、市ホームページやフェイスブック、記者クラブへのプレスリリース等を活用しています。事業計画、愛称募集、愛称決定、開所式、利用開始など、その都度情報発信し周知を図っている。

Q 指定管理制度の導入をどのようにお考えですか。

A 平成30年4月1日より指定管理者による運営を予定しています。指定管理者は、平成29年10月30日に行われる選定委員会にて審査が行われ、12月議会で決定される見込みになっています。管理運営費は、年間約2,100万円で、利用料収入を約1,930万円と見込む。

Q 今後の取り組みはどのようなようですか。

A 駅北ロータリーの改修及びふれあい広場等を年次的に整備し、イベントなどの多種多様な活動に利用できる交流の場を目指した小林駅周辺整備を図っていく。

3 所見

(渡辺) 中心市街地にある駅、バスセンター、観光協会を併設し、駅周辺の一体的な活性化、利便性の向上、観光客増加を図るための施設である。集会やイベントなどの交流スペース、駅やバスの待合い、旅行社の事務所などに利用されている。また、観光推進協議会があり、地域全体での戦略的な観光地域づくりを目指している。今年の7月31日に開設したものであり、憩いの場や観光情報発信の拠点として期待されている。延床面積884㎡であり、管

理運営費は年間 2,100 万円と見込まれているため有効活用が今後の課題と思われる。

(永山) 駅周辺の開発例として「KITTO 小林」を見学させていただいた。運営については、初年度、市の直営管理をおこなっているが、次年度からは指定管理者による運営が行われる予定となっている。「交流スペース」は、集会や会議、イベントなど多くの市民に利用されているそうだ。多目的に活用できるスペースは西尾駅周辺の開発にも大いに参考になった。

(本郷) JR 駅舎を利用した複合施設である。単線、1 時間に 1 本の吉都線については、名鉄西蒲線と同様に存続の危機にあるということである。しかし、JR に対して補助金支出はしていない。施設 1 階・2 階にある交流スペースは住民の居場所として重宝されているようで、視察当日も 1 階交流スペースでは、お年寄りが飲食しながら楽しそうに語らう姿が見られた。また、2 階スペースは、学生たちの格好の勉強場所となっており、夜 10 時までの開館は誠にありがたいものと推察できる。駅から少し離れた一面に建設中の複合施設は、一階部分は医療機関や子育てセンター、2 階は公共施設、3 階から 6 階は賃貸住宅とのこと。基礎工事段階の現在すでに入居申し込み満了の状態、担当課の話によれば、もう少し高い建物にすればよかった、そうである。どういう所に人は集まるか、参考にすべく付記したいと思う。

(犬飼) KITTO 小林は社会資本整備総合交付金を活用し、平成 29 年 7 月 30 日にオープンした、木造 2 階建ての新しい施設でありました。

目的は、市民の中心市街地エリアへのニーズや、生活環境の向上と、ふれあい・交流スペースの確保及び、利用しやすい中心市街地の形成のため設立。

とりわけ、2階の交流スペースは集会や会議のほか、イベント等で利用されるが、施設の貸切以外は無料で利用できる施設である事から、多くの学生等、市民の皆さんに利用される施設でありました。まだまだ新しい施設である為、インターネット環境が無い事や、学生が勉強するテーブル数が少ない等、課題もあると感じましたが、今後、市民の意見・要望を聞きながら、より良い施設に進化することを期待する。

(青山)市役所に併設された、議会棟を訪れた。市有林を活用した全国的にも珍しい木造3階建てで、議場もすべて木造で造られ、木の温もりを醸し出していた。木造の寿命は長く、2020年のオリンピックメイン会場の国立競技場をはじめ、今後は木造建築が増えていくのではないかと思う。

JR小林駅を中心に昭和51年度から着手した土地区画整理事業をすべて完了し、中心市街地の活性化に取り組んでいる。本年7月に駅とバスセンター、さらに観光協会を併設、2階に市民の交流スペースを設けた小林市地域・観光交流センターがオープン。全国からの応募により、「KITTO 小林」というユニークな愛称が付けられ、イベントなど多種多様な活動に利用できる交流の場を目指しており、今後注目していきたい。

駅前の交流スペースということで、いろいろな方に目につく場所で利用も多く見込める。利用制限も少なく、飲食もでき多岐にわたっての利用が期待できる。西尾駅前にはコンベンションホールの予定があるが、一部交流スペースとして利用できる場所があてもいのではないかと思う。駅前活性化の一役を担える可能性はあると思う。

(稲垣) 地域・観光交流センターの拠点を視察した。観光に力を入れていくとのことだが、この地域の観光スポットが今一ということと、宮崎市から鉄道があるが、一時間に一本しか電車が走っていない状況など、観光については根本的な部分から考える直す必要があるように感じた。

(颯田) 小林市はたびたび合併を繰り返し 28 年度が合併特例債の最終年度であった。JR 吉都線は、にしがま線と同様学生中心の駅であり、学生が日に 70 人前後で 1 時間に一本である。JR の為補助金はまだ出していないが今後はそうはいかないようだ。

小林市の玄関口である、小林駅は開業より 100 周年記念イベントを実施、利用促進の取り組みの中で、市民の中心市街地エリアへのニーズや、生活環境の向上と、ふれあい・交流スペースの確保を図る、小林市地域・観光交流センターの建設である。宮崎交通バスセンターと小林市観光協会が併設することにより、駅周辺の一体的な活性化はもとより、さらなる利便性の向上と観光増加を図っている。

建物は木造 2 階建て 3 億 3,497 万 5 千円、29 年 6 月 30 日出来立てホヤホヤ。通常は誰が使用しても無料。予約の場合は有料で年間運営費は、2,100 万円超で、利用収入は 193 万円ほど。今後は指定管理者制度に切り替えていく。特例債も無くなり今後の公共施設建設は大変のようだ。

当市と同様に公共施設の運営管理は大変のようで、外部委託や指定管理の採用を取り入れる対策を考えている。まだ交付団体はいいけれど、当市のように限りなく 1 に近い交付団体は、交付税も少ないわが身を削いで運営しなければならない。交付税算定替えがあるうち早い段階で、古い建物は作り直しておかないと、これこそ孫の代で大きな大きな財政負担がかかってしまう。中村市長以下反対の皆さん考え直さないと 30 年後の西尾市が心配です。



収支報告

| 項目 | 支出金額 | 備考 |
|-------|------------------|---------------------|
| 調査研究費 | 1, 5 5 1, 2 5 0円 | 旅費 1, 5 5 1, 2 5 0円 |
| 資料作成費 | 円 | |
| 資料購入費 | 円 | |
| 事務費 | 円 | |
| 計 | 1, 5 5 1, 2 5 0円 | |